

剣道ができることへの感謝

宮崎県

朱雀館道場

中学2年 今 西 輝

今年は、新型コロナウイルスの影響で、道場での稽古も部活動もできない日々が続きました。

僕は、こんなことが起こるとは思いもしなかったので、「一体いつになったら稽古や試合ができるのだろうか」「体力が落ちたり竹刀の振りが遅くなったりしたらどうしよう」と不安な気持ちになりました。剣道仲間とも会うことが出来ず、周りから取り残されるような気持ちになることもありました。でも、「負けてはいられない」自分に言い聞かせ、毎日素振りや筋トレなど自分なりに考えたメニューを日々黙々とこなしていました。

二ヶ月半振りに部活ができるようになった時、僕は「ようやく剣道ができる」とうれしくてたまりませんでした。ただ、マスクなどを付けての稽古は予想以上にきつく、僕を含めほとんどの部員が過呼吸状態になってしまいました。足の裏の皮もはがれ、いかに練習不足だったかを思い知らされました。それでも実践的な稽古ができることはうれしくてたまりませんでした。「僕はやはり剣道が好きなんだ」と改めて実感することができました。

久しぶりの試合は、県の中体連大会でした。この試合は三年生にとって最後の中体連です。今年は地区大会のみの開催なので、勝っても上に上がることができません。先輩達はどんなに悔しい思いをしているだろうと思いました。僕は先輩達の為にも全力で臨むことを心に誓いました。

もう一つ、僕には全力で臨む理由がありました。それは祖父との約束です。祖父は、僕が剣道を初めた五歳の時から、試合の応援に来てくれるだけでなく部活や稽古も見に来てくれていました。「輝の剣道での活躍が生きがい」だと言って応援してくれる祖父を喜ばせてくれて僕はこれまでがんばってきました。そんな祖父が体調を崩しました。試合の三日前に会いに行くと、祖父は酸素吸入器を付けていました。少し息苦しそうでしたが、それでも、椅子に座って僕が試合への意気込みを熱く話すのをうれしそうに聞いていました。そして、「いつものように自信をもってがんばれ。」と握手をしてくれました。

僕は、祖父がもうあまり長く生きられないことを聞かされていませんでした。試合に集中

できるようにという配慮だったと後から聞きました。試合の後、すぐにかかけつくと、祖父はまだ待っていていました。最後に試合の報告ができてよかったと思います。祖父はその日の夜、亡くなりました。

僕は剣道が好きです。稽古はきついけれど、いろいろな技ができるようになり、自分より強い相手や大きい相手に勝てた時はとてもうれしいです。もっともっと強くなりたいと思います。祖父はもういませんが、天国でも応援してくれていると思います。これからも、祖父が好きだった剣道をあきらめず、がんばっていこうと思います。「いつものように自信をもって。」そう言ってくれた言葉を胸に努力を続けていこうと思います。